

謹啓陳者本會近世史料収集保存ノ事業ヲ進捗
擴張スル為ノ國庫ノ補助ヲ要スル件ハ第九期
議會ニ於テ貴族院先ツ之ヲ議決建議シ第十期
議會ニ於テ衆議院亦之ヲ議決建議シ前後此ノ
如キモノ貴族院ハ二回衆議院ハ三回ニ及ヒタ
レ凡時ノ内閣ハ其輿論ヲ顧ミス常ニ之ヲ差置
カレタルヲ本會ノ歎息痛恨ニ堪ヘサル所ニ候
然ルニ今回文部大臣ハ幸ニシテ本會ノ旨趣ヲ
嘉納アリ不日右國庫補助ノ件ヲ以テ閣議ニ提
出セラルヘキ旨ヲ傳承致候就テハ閣下ニ於テ

史談會

モ速ニ諒案ニ御賛同アリテ以テ本會積年ノ希
望ヲ達シ近世史料収集ノ事業ヲ完ッセシメラ
レシテ實ニ懇請ノ至リニ堪ヘス候因テ御參考
ノ為メ別紙相副ヘ此段得貴意候敬具

史談會副會長

明治三十一年九月十二日

伯爵東久世通禧



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

史談會設立之來歴及現行會約

史談會ハ明治廿二年四月廿五日星ヶ岡茶寮ニ於テ島津家始六家ノ編輯員十數名相集マリ開會セシヲ以テ遷觸トス抑々此會ヲ開クニ至リシハ明治廿一年七月十二日宮内省ヨリ島津公義毛利公元山内侯徳川侯徳ノ四家ニ其舊藩ニ於テ國事ニ執筆セシ始末詳細取調編纂上呈スヘシトノ命アリシニ此四家ハ從來已ニ編輯員ヲ置キ家記ノ編輯ニ從事シタルヲ以テ一層此命ヲ感激シ益此業ヲ進タリト雖モ其執筆セシ始末ハ上 朝廷幕府公武諸家ヨリ下有志士庶ニ至マテ其關係スル所頗ル廣ク僅々一家ニ傳フル所ノ文書等ニ徴スルノミニテハ素ヨリ詳細ノ編纂ヲ得ス故ニ四家ノ編輯員先ツ互ニ往來交通シテ宮内省ニ於ケル三條公義岩倉公具ノ傳記取調員ニ會合シ相共ニ事蹟ヲ討究シ文書ヲ交換セシニ各自ノ得ル所悉ナカラスニ於テ各家ノ交通會合ハ材料蒐集ニ必要ニ關ク可ラサルノ媒介ナルヲ感シ六家(後宮内省ニ於ケル七家トナル)ノ編輯員更ニ相謀リ史談會ヲ創設シ毎月一回必ス會合スルヲ期スルニ至レリ

是ヨリ先七家ハ其家記ヲ編輯スルニ止ルノ目的ナリシモ此會ヲ創設セシ以來大ニ其目的ヲ擴張セリ今其概要ヲ述ブレバ明治中興ノ大業ハ開關以來未曾有ノ革新ナレハ精密精確ノ歴史ヲ編成シテ之ヲ千載ニ傳ヘサル可カラサルナリ精密精確ノ歴史ヲ編成スルニハ世ニ傳ハル所ノ文書未タ盡セズ當時大業ヲ翼贊シ之ニ關係シ其實事ヲ目撃セシ人士ノ未タ存在スル今日ニアラサレハ千緒萬端ニ涉リタル事情ノ真相ヲ知得シ難キコトハ少シシ事理解スルモノ、能ク確認スル所ナリ然レニ今日編輯スル所ノ家記ハ即チ此大業ニ關スル事實ノ大部分ヲ占ム別ニ特異ノ事蹟アルニアラサレハ家記ヲ編輯スルト同時ニ明治中興ノ史料ヲ蒐集スルコトセハ事ハ即チ容易ニシテ功ハ即チ之ニ倍蓰スヘントノ旨趣ヲ以テ更ニ進ミテ天保二年 先帝御降誕ノ時ヨリ明治四年廢藩置縣中興ノ基礎大ニ定マルノ時ニ至ル四十四年間ノ事實ヲ細大洩ラサス網羅集成スルコトナシ益其規模ヲ擴張シテ弘ク各家ニ交通ヲ開クコト勉メタリ今其事實ヲ述ヘンニ宮内省ハ四家ニ特命ノ後明治廿七年七月一日徳川公義始六家ニ其舊藩ニ於ケル國事並ニ時運ニ關スル文書類當時秘密ニ屬スルモノト雖モ取捨ナク取東子差出スヘシトノ命アリ同廿三年十二月五日池田侯政始六家ニ同廿四年六月十日蜂須賀侯政始八十六家ニ同年同月廿八日徳川伯達始六十一家ニ同廿五年三月十四日尙侯泰始百卅九家ニ同旨趣ノ命アリシヲ以テ此命アル毎ニ本會ハ大會ヲ催シ或ハ書翰ヲ贈リ本會ニ加入アラントテ特命ノアリシ各家ニ求メシニ同意ヲ表シテ加入ノ諸家漸次増加シ目下開會毎ニ家主自ら會同シ又委員ヲシテ出會セシムルモノ其員數例會ニハ五十名以上大會ニハ百名以上ニ及ヘリ又本會ハ明治廿五年一月十五日會長一名副會長二名幹事五名置キ伊達正二位宗貞侯副會長ニ金子堅太郎氏幹事長ニ島津、毛利、山内、徳川、松平、黒田前田伊達池田、松平、蜂須賀、大村、阿部、山縣、秋元家ノ家記編輯員以上十六三條岩倉兩、傳記取調員二名ヲ幹事ニ推薦ス尋テ池田、松平、南都鍋島有馬細川松平、伊達堀田久松藤堂、戸澤成瀬相馬加藤松前生駒ノ編輯員ヲ加フ同年三月十七日久我侯進始六十四名ヲ特別名譽會員ニ島津公義始三十四名ヲ名譽會員ニ推薦セリ尋テ伊達副會長長去セラレシヲ以テ同廿六年二月十八日東久世伯達副會長ニ推薦シ同時ニ副會長三名ニ改メ池田正二位政ヲ副會長ニ推薦シ尋テ史料ノ蒐集保存ヲ努メ傍ヲ舊功者ノ實歴談ヲ速記シテ事實ノ遺漏誤正ヲ爲シ致々其業ヲ勉メテ今日ニ至レリ明治二十九年ニ及ヒ京都ニ於テ同地ノ有歷者及有志ノ諸氏史談會ノ趣旨ヲ賛成セリ同地ニ同會ノ支部ヲ置キ東西提携以テ史料蒐集ノ業ヲ完成セントノ議アリ之ヲ賛成スル者多ク同年八月九日始メテ京都史談會支部ノ初會式ヲ同地ノ華族會館支局ニ開カレタリ同日支部會長ニ壬生伯修ヲ推薦シ幹事ニ山本復一水本兼孝ノ兩氏ヲ推シ會則ヲ議定シ爾今毎月二回集會實歴家ノ談話ヲ速記シ傍ヲ諸家所藏ノ史料ヲ搜集スルコトヲ約セリ爾來日ニ月ニ會員ヲ増加シ將來ノ希望益々多キヲ加フル

史談會約

以上列記スル所ハ本會創設ニ係ル前後ノ實況ニシテ史料集成ノ方法ニ於ケルモ準備既ニ整ヒ明治廿五年二月 近世歴史綱領(天保二年ヨリ明治四年ニ至ル四十年間)ヲ編成シ又諸家ニ傳フル所ノ文書ヲ蒐集シ傍ヲ明治中興ノ際經歷セシ人士ニ會同テ請ヒ或ハ其家ニ就キ事實ヲ聽キ之ヲ速記連記録セリセシム又四十一一年間ヲ十部ニ分チ每部取調委員二名ヲ以テ之ヲ分擔セシメ史料ノ採擇ニ從事スル等若々歩ヲ進メテ依テ本會創立以來ノ事實ヲ概記シ併セテ左ニ現行ノ會約ヲ掲ク

- 第一條 本會ハ史談會ト稱シ各家主及各家編輯員相會シ近世歴史ニ關スル内外ノ實蹟ヲ談話討究シ材料ヲ交換保存シ編輯史料トナスヲ目的トス
- 第二條 本會ハ左ノ職員ヲ置ク
 - 一 會長 一員 會務ヲ總括ス
 - 一 副會長 三員 會長ヲ輔弼シ本會ノ總務ヲ督ス會長不在ナルトキハ之ヲ代理ス
 - 一 幹事長 一員 副會長ヲ輔ケ本會ノ雜務ヲ指揮ス
 - 一 幹事 若干員 幹事長ノ指揮ヲ受ケ一切ノ會務ヲ處理ス

- 職員ハ會長ノ推薦ニ依ル
- 第三條 本會ニ加入アリシ各家主及ヒ朝野ヲ問ハス事歴アル人ハ會長ノ承認ヲ經テ名譽會員ニ推薦スルコトアルヘシ
 - 第四條 會場ハ當番幹事ヨリ臨時指定之ヲ報告シ會務ハ赤坂離宮内舊藩事蹟取調所ニ於テ之ヲ取扱フ
 - 第五條 會日ハ毎月第二土曜日定メ午後ヨリ開會ス
 - 第六條 史料トナスヘキ事蹟ニシテ曖昧疑似ニ涉リ其他訂正ヲ要スヘキ件ハ本會ニ提出シ諮詢スヘシ但本會ニ於テ尙明瞭ナラサル件ハ他ニ訂正ノ方法ヲ詢ルヘシ
 - 第七條 當時ノ事實ヲ聞キ又ハ疑似ノ事件ヲ質ス爲メニ當時國事ニ執筆セシ人ヲ招待スルコトアルヘシ
 - 第八條 會務整理ノ爲メ幹事ハ抽籤ヲ以テ兩名宛月番ノ順次ヲ定メ之ニ從事セシムヘシ
 - 第九條 會員ハ每前會ニ於テ出席人員ヲ次會ノ幹事ニ通知スヘシ但通知セシ人員中臨時出席シ難キトキハ會期前三日迄ニ幹事ニ告知スヘシ
 - 第十條 會費ハ毎月一名金一圓ト定ム但會費ハ出席人員通知済ノ後ニ至リ尙ホ不參スルモノ之ヲ差出スモノトス
 - 第十一條 招待人員ノ會費ハ一時幹事ヨリ支辨シ置キ精算ノ上次會ニ於テ分屬スヘシ
 - 第十二條 一己人ニテ本會ニ入會セントスルモノハ會員ニ照會シ其許諾ヲ受クヘシ

現職員

副會長正二位	池田茂政	同伯爵	東久世通祿
幹事長	金子堅太郎	幹事	嶋津家編輯員
	伊達家編輯員		寺師宗徳
	鈴木讓		秋元家編輯員
	池田家編輯員		岡谷繁實
	土肥實匡		松平家編輯員
	須賀家編輯員		佐々木千尋
	小杉樞		大村家編輯員
	須賀家編輯員		野澤俊元
	吉澤忠高		嶋津家編輯員
	池田家編輯員		長森敬斐
	菅長強		有馬家編輯員
	小野保		佐田白芽
	相馬家編輯員		成瀬家編輯員
	石川英昌		加藤重太郎
	山縣篤藏		松前家編輯員
	川瀬教文		櫻庭爲四郎
	徳川家編輯員		宮地殿夫
	松原方直		蒲田家編輯員
	黒田家編輯員		前田家編輯員
	井上瑞枝		戸水信義
	南都家編輯員		三條公傳取調員
	鳥谷部紹胤		磯野佐一郎
	高原淳次郎		松平家編輯員
	伊達家編輯員		牧野謙次郎
	作並清亮		松平家編輯員
	久松家編輯員		石丸鳴水
	内藤素行		堀田家編輯員
	阿部家編輯員		渡邊充
	平田白鶴		堀田家編輯員
	生駒家編輯員		古瀬彈治
	小野元佳		加藤家編輯員
			力石八十綱
			松平家編輯員
			平野長志

史談會京都支部假規約

- 第一條 當部ヲ史談會京都支部ト稱ス
 - 第二條 當部ハ本會ノ主意ニ從ヒ維新事蹟ノ取調及其史料ヲ拾集ス
 - 第三條 支部長一人
 - 第四條 支部長ハ當部ヲ總理ス
 - 第五條 理事若干名
 - 第六條 理事ハ文書會計庶務等ヲ處理ス
 - 第七條 支部ハ毎月日曜日開會ス
 - 第八條 事務所ハ當分上京區中長者町西人山本復一方トス
- 京都支部現職員
- 支部長 伯爵 壬生基修
 - 理事 山本復一
 - 全 賴龍三
 - 全 鈴木無隱

史談會國庫補助ニ關スル建議

近世史料ヲ蒐集スルハ國家ノ急務ニシテ速ニ其完成ヲ期セサルヘカラス今ヤ幸ニ史談會ナルモノアリ...

貴族院建議

明治二十七年五月十六日提出

提出者 男子 爵由 取利 素公 彦正

貴族院建議

明治三十年一月二十九日提出

提出者 男子 爵由 取利 素公 彦正

衆議院建議

明治二十八年二月八日提出

提出者 柏鈴末 田木廣 盛重重 文遠恭

衆議院建議

明治二十九年一月十三日提出

提出者 島小柏鈴 田室田木 孝重盛重 之弘文遠

衆議院建議

明治三十年一月十九日提出

提出者 河柏小鈴 田室田木 盛重重 醇文弘遠

凡ノ國家ノ基礎ヲ堅クシテ國民ノ志望ヲ厚クシテシムルニハ國史ノ纂修ニ依ラサルヘカラス...

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

親展



緘

史談會副會長

伯爵東久世通禧

緘